

ちょっと一言!!

市民の声



消防出初式より

広報委員が市民の皆さんに、行方市に寄せた思いをインタビューしました。



●私は、小学校跡地の近くに住んでいます。この跡地について有効活用は出来ないでしょうか。現在市で運動場の草刈りなどはしていたらいいのですが、木などがうっそうと茂り、とても重苦しい雰囲気となっています。地元の方に管理をしていただき、ルールを決めて子ども達に開放すれば、効率的に活用できるのではないのでしょうか。新しい施設を建てるのではなく、地元の皆様の憩いの場として有効活用できることを期待しています。(60代女性)

●行方市消防団に関してご意見させていただきます。職業を持つ傍ら、地域の安心安全のため尽力されており、無くてはな

らない組織だとは思いますが、若年層の減少に伴い入団員の確保が難しくなり、現役団員の勤務年数は長期化し、退団後数年経過してから回ってくる役職等、負担が大き過ぎると思います。

●近隣他市の動向を踏まえ、団員数の削減、間を空けない役職付与等、思い切った組織改革を切に希望します。(40代男性)

●行方市も厳しい財政の中でいろいろな取り組みをされていると思いますが、将来の行方市を考えた時、一番大切な事は、多くの子ども達が明るく元気に暮らせるまちづくりをする事だと思います。そのためにも、子育て支援や教育の充実に力を入れて頂きたいと思います。

●ひとり親の子どもや、特別な支援を要する子ども達も、きちんと教育を受けられる行方市にしてほしいと思います。(30代女性)

●私の住む地域は何年も変わり映えのない農漁業の地であった。後継者は市外へ、農地は荒地が目立ち、船溜まりは沈んだ舟、そんな地域にも小学校跡地に、なめがたファーマーズビレッジがオープンした。素晴らしい商業施設で大勢の人が働ける会社、出ていた人も戻り県内外の人たちも集まり、あらゆる部分で経済効果が出るものと思う。

また、市内の随所で高速道路建設が始まりました。完成時には、ひと、車が立ち寄る魅力ある夢の持てる行方市づくりを期待します。(60代男性)

●私の住んでいる所からは、氣候により、富士山も見え、沈む夕日もとても絶景です。慌ただしく時間だけが過ぎてゆく日々の中で、この土地に生まれ育つたことを幸せに感じるひと時です。これから生涯この地で暮らしていく所存ではありますが、まず活気を取り戻すべく個々の努力、意向上が必要かなと思う今日この頃であります。

●私の胸に刻まれた標語があります。「僕見たよ、霞ヶ浦で泳ぐ夢」皆様はどうお感じですか？(50代女性)

●夢がある。近所のお年寄りが集まってくる、暑い日も寒い日もとつても楽しそうに。そんな憩いの場所が作れたら...。場所が町内の一角。間口が広く、十坪程度の飲食スペース。奥に同じくらしいの広さの畳の部屋。ファミレスにあるようなドリンクバーのみを設置。持ち込み可。テーブル・イスは簡易なものでもいいけれど、冷暖房は完備。料金は65歳以上と未就学児は安くして。そんな集える場所があったらいいな。(60代男性)

編集後記

市民各位には輝かしい平成28年の新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素、我々の議会活動にご理解とご協力を賜り心から厚く御礼申し上げます。今回は平成27年第4回定例会の「議会だより」を市民の皆様にお届けいたします。内容は意見書の提出や条例の制定、改正、組合規約の変更、指定管理者の指定、各会計の補正予算、財産の譲与、一般質問等であります。活発に審議されましたこと紙面をお借りし御報告いたします。さて、今年度で大きな建設事業が一区切りつきますが、今後学校等施設の跡地利用や廃止、本庁舎の建設等の課題もあります。また、地方創生推進特別委員会では執行部や市民の皆様と連携して人口減少という喫緊の課題に取り組み、「まち、ひと、しごと」が持続可能で未来に希望の持てる総合戦略書策定に寄与できるように議論を重ねております。結びに、市民の福祉向上に努力していくことをお約束しますとともに皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。(宮内守)



議会だよりの
ご意見・ご感想を
お待ちしております。

広報委員会
委員長 正利 信守 郎
委員 長 浩 忠 正 仙 一 郎
副委員長 子 小 野 瀬 橋 内 崎 部
委員 土 小 高 宮 藤 阿
委員 〃 〃 〃 〃 〃